

平成24年度 博士前期課程学位論文要旨

学位論文題名 (注: 学位論文題名が欧文の場合は和訳をつけること)

大都市圏の中小規模病院における看護者の就業継続要因
ー職務満足およびケア達成度の認識との関連ー

学位の種類: 修士(看護学)

人間健康科学研究科 博士前期課程 人間健康科学専攻看護科学域

学修番号 11894603

氏名: 大林智子

(指導教員名: 習田明裕准教授)

注: 1,000 字程度 (欧文の場合 300 ワード程度) で、本様式 1 枚 (A 4 版) に収めること

目的: 東京都の中小規模病院に勤務する看護者を対象に、就業継続意思と職務満足およびケア達成度の認識との関連を明らかにすることを目的とした。

方法: 東京都内の島しょを除く 300 床未満の全ての病院に研究協力を依頼し、同意を得られた 25 施設に勤務する看護者 1,026 名を研究対象とした。無記名自記式調査票を用いて留置法にて調査を行った。調査内容は、就業継続意思(4 件法)、性別・婚姻状況など属性 10 項目(単一回答式)、職務満足 4 カテゴリー・63 項目(5 件法)、ケア達成度の認識 8 カテゴリー・31 項目(4 件法)、計 105 項目である。

分析: 分析は、統計学的手法で行った。まず、就業継続意思、属性、職務満足、ケア達成度の認識、それぞれの基本統計量を算出した。次に、就業継続意思を従属変数、属性、職務満足、ケア達成度の認識を独立変数として、それぞれに単変量解析を行った。その後、単変量解析で統計学上有意差が認められた変数を説明変数、就業継続意思を目的変数として重回帰分析を行った。

結果: 有効回答者は 736 人(有効回答率 72.7%)だった。対象者の属性は、女性が 93.5%、平均年齢は 36.6 歳、既婚と未婚がほぼ半々で、未成年の子どもをもつ対象者は全体の約 3 割だった。経験年数の平均値は 11 年 5 カ月、現施設での勤続年数の平均値は 4 年 8 カ月、診療科目は内科と外科系で 68.4%を占めた。就業継続意思を示した対象者は、全体の約半数だった。職務満足では、上司や同僚、医師等との「仕事上の人間関係」のカテゴリーで最も平均値が高く、創造性や変革力を問う「看護者としての自己実現」で最も低かった。ケア達成度の認識では、ほぼすべてのカテゴリーで平均値が 2.5 点(4 点満点中)を上回った。単変量解析では、属性で性別と雇用条件以外の 8 項目、職務満足では 4 つのカテゴリーすべて、ケア達成度の認識では 3 つのカテゴリー、計 15 の変数で有意差がみられた。この 15 の変数を説明変数とした重回帰分析の結果、年齢、婚姻状況、診療科目、職務満足の「管理システム」・「仕事上の人間関係」・「専門職性」の 6 つの変数で、就業継続意思の関連要因の 31.2%が説明された。また、ケア達成度の認識は職務満足と強い相関がみられた。

考察: 診療科目は先行研究には見られない新たな変数であり、中小規模病院における就業継続意思の関連要因である可能性がある。また、ケア達成度の認識は職務満足を介して就業継続意思に関連していることが示唆された。